

平成26年度 小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
第2回利用専門部会 議事概要

平成27年2月23日（月）14:00～15:10
小笠原村地域福祉センター会議室

1. 傘山、躑躅山ルートにおけるオガサワラノスリのモニタリング結果について
 - ・ モニタリング結果が蓄積されてきたことを踏まえ、専門家による中間報告をまとめた上で、新たなノスリ調査を行ってはどうか。
 - ・ 新たなノスリ調査については、母島も計画に組み入れてもらいたい。
2. 聳島指定ルートについて
 - ・ 聳島指定ルートの利用については、運用を進めながら、改良点があれば随時関係者と協議して修正していくこととする。
 - ・ ルート利用者から外来種侵入情報を報告してもらい、対応するようにしてはどうか。
3. 海岸部の利用について
 - ・ 海岸部の利用実態について、プレジャーボートの会などの協力を得て情報を集める必要がある。
 - ・ 海岸利用の場所は、兄島の滝之浦などに限られていることから、そこに分かりやすく注意喚起の看板の設置などの見える化を行うことで、利用者の理解が得られるのではないか。
 - ・ 海岸から森林に入っている人は観光利用よりも調査研究者が多いことから、公平性の観点からも調査研究目的を明示させる必要があるのではないか。観光客も調査研究者も同じコンセンサスの下に同じルールに則ることを明確にすることが重要である。
4. 小笠原諸島森林生態系保護地域の保全と利用に関する調査について
 - ・ 父島の夜明平西、母島の桑之木山ともに、従来の観光ツアーではなく、自然再生などの環境教育や世界自然遺産の森を体感できるようなフィールドの方向性が打ち出された。世界自然遺産、森林生態系のコミュニケーションの場として、さらに推進してもらいたい。
 - ・ 母島の桑ノ木山における外来種駆除体験の実施に当たり、必要となるヘルメットを国有林で用意してもらえれば、利用促進になるのでお願いしたい。